

本のまちビジョン(素案)に対するパブリックコメント結果について

- 意見募集期間
- 2024 年(令和 6 年)12 月 20 日(金)～2025 年(令和 7 年)1 月 20 日(月)
- 募集結果
- 5 名の方から 15 件の意見をいただきました。
- 意見一覧
- いただいたご意見を(1)市の取組に対するご意見、(2)ビジョンの中に記述があるご意見、(3)ビジョンの内容変更について検討を要するご意見、の3つに分類しました。各ご意見に対する回答の方向性やビジョンに内容の変更案について、下記の表に概要を記しています。
- なお、正式な回答文については別途作成する予定です。

(1)市の取組に対するご意見

No.	該当箇所	ご意見の内容	回答の方向性
1	7 ページ 3 行目 「いつでも、どこでも、だれでも手を伸ばせば本に届くまち」	将来も含め図書館の数、ブックスポットの数を考えると、その理想に近づいていると思います。しかし数や場所があっても実際に手を伸ばしている人がいるかどうか。問題はブックスポットの認知度でしょうか。また振り向けばそこに本があり、手に取ってみようという作りをしているかどうかでしょうか。	市の取組に対するご意見として、それぞれ回答案を作成する予定
2	25 ページ 9 月 8 日ワークショップ結果概要 18 行目「本のある場所の充実」	ブックスポットの認知向上が必要。まずどのようなものなのか知ってもらう必要がある。市内を歩いていても、なかなか明石まちなかブックスポットのロゴを見かけることがありません。まず人の目に入ることも大事かと。明石まちなかブックスポットの PR グッズが少ない気がします。スタッカーシールの大・中・小、ポスターなど充実させて欲しいです。ブックスポットによってはステッカーが剥がれていたり、旗も古びてしまっています。	
3	8 ページ「⑥やりたいことにチャレンジできる」	二見図書館でボランティア活動「えほんの読み聞かせ」に参加したいです。	
4	—	図書館がやられている「ゆるっと読書会」に数回参加しましたが、話し合いの進め方からも、熱意が感じられませんでした。なんのために開催しているのか、不明でした。参加者の定員が 10 人では、応募を躊躇すると思います。ただ単に業務をこなしている感じがします	
5	—	ウイズ明石がやられている「本を通して自分と向き合う時間」は人と人を繋ぐ素晴らしい取り組みだと思いました。10 人程度となっていますが、参加者は多く、グループ分けするなど工夫がされています	
6	—	本好きにするには、幼児期の体験が大事だと思います。もっと数多く読み聞かせの機会を増やしてあげてください	
7	—	色々な所に本を届ける取り組みはいいことですので続けていただけたらと思います	
8	—	【市内読書会の PR と支援について】 明石は読書会が盛んで「本のまち明石」を特徴づけている要素のひとつである点も訴求してはいかがでしょうか。・ウィズあかし「本をとおして自分と向き合う時間」:隔月開催。参加者は常時二桁、20 名を超えることも。神戸、姫路、加古川からも参加・あかし市民図書館、西部図書館の2館で毎月開催。「ふたみん」も？また、更なる広報活動(特に小中高生向け)、市民レベルの読書会の登録制度等の支援もお願いしたいです。	
9	—	【司書の充実】 子供たちの読書促進に向け将来的に市内のすべての小中学校に専任司書の週 5 日駐在を目指してはどうでしょうか(素案 P25 にも 1 校 1 人司書希望と記載されています)。東京都荒川区ではそれにより生徒の本の貸し出しが 3 倍になったそうです。	
10	P13 学校図書館の期待する役割、連携の理想像	明石が本のまちになっていくには長い時間をかけ醸成していくものと考えます。そのために一番大事なのは子どもです。子どもが本と出会い育っていかないと、本のまちは一部の本好きの人だけのビジョンになってしまうのではないのでしょうか。地域にブックスポットや図書館があっても家庭環境等によりどの子も通えるわけではありません。だから、何より一番大事なのは学校図書館の充実で、蔵書と人を備える必要があります。現在、明石では学校司書が2校兼務などで勤務されていると伺いました。資格を持つ司書が1校専任で毎日勤務し、いつでも子どもたちが学校図書館で本に出会え、学習できる環境づくりが大事だと考えます。全国的にも学校司書が充実しているところは本当に数少ないので、子育てを大切にし、本のまちを掲げる明石こそ先進的に取り組んでいただきたいと思います。	

(2)ビジョンの中に記述があるご意見

No.	該当箇所	ご意見の内容	回答の方向性
11	—	本離れが進んでいることをどうするのかという視点がないと思います。また、どのような【人生を送ってもらおう】としているのかというような大きな視点が見えません。	・4 ページ「はじめに」 ・7～8 ページ「明石市が目指したい『本のまち』のイメージ」 ・10 ページ「本のまちが目指すイメージ(全体像)」等に記述あり
12	4 ページ	「本や人との出会い」とありますが、その人というのは本の中の人なのか、現実の人なのか、ピントがボケています。本を読んで人の生き方に出会うのは当たり前のことです。	4 ページ「はじめに」に記述あり
13	—	私は、認知症の予防に関心があります。読書はインプットで、人との語らいはアウトプットで、インプットだけでは、認知症まっしぐらです。いくら「本のまち」と実現しても認知症患者が増えるのは辛いですね。医療費削減からも、本を増やすだけでは、明石市の未来は明るくなりません。	・7～8 ページ「明石市が目指したい『本のまち』のイメージ」ほかに記述あり

(3)ビジョンの内容変更について検討を要するご意見

No.	該当箇所	ご意見の内容	内容変更案
14	P4～7	本のまちを掲げることは素晴らしい取組で、本を通して居場所をつくり、人と人がつながっていくこと、やさしさあふれるまちづくりも大事だと思いますが、そもそも「本を読む」こと自体の意味やその大切さが抜けてはいるのではないのでしょうか。本を読むことが当たり前「いい」というだけではなく、その意味がないと、本が単にまちづくりの手段にされているように感じました。子どもに「何で本読まないとかあんの？」と聞かれたときに答えられるものが必要ではないのでしょうか。	P4「はじめに」に本を読むことについての記述を追加する？
15	P10 の図及びP16 の市の役割	核となるのが公共図書館で本のまち全ての中心に位置していますが、指定管理制度により運営されている図書館でどれだけ中心の役割が担えるのか心配です。図書館は利益を生み出す場所ではないだけに、指定管理料の中で働く図書館司書にしわ寄せがいかないよう配慮が必要だと思います。また、このビジョンが成功するのは、人にかかっていると思います。特に図書館司書、学校司書など、本と人をつなぐための専門職の方たちを大事にしていきたい、つまり人にはお金をかけてほしいということです。専門職は専門職、ボランティアはボランティア、それぞれがちゃんと活躍できるよう市が主導して進めていきたいと思います。 また、市の役割は一番重要で、現在、市の職員の方で図書館のこと、本のこと、分かっておられる方はいらっしゃるのでしょうか。図書館に指定管理制度が導入され始めた頃、自治体側の図書館業務のノウハウが失われていくことが危惧されていました。今回のビジョンの中で核の中には「市(本のまち担当)」も入るべきで、この図では図書館任せになっていないのでしょうか。	10 ページ「本のまちが目指すイメージ(全体像)」の本のまち担当の位置を中心によせる？